

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

75

2011. 9. 30

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）等の兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行及び全国、海外の協同組合運動との連携をはかることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らしよい兵庫をめざしてー協同が息づくまちづくりー」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. 第89回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催 2~4
3. 「金雨樹」を協同学苑で発見 5

Contents

4. 今協同組合ではー各協同組合からの報告ー
 - 生協/JA（農協） 6
 - JF（漁協）/JForest（森林組合） 7
5. 協同組合運動に生きる
健康管理活動による地域社会への貢献 8
JA兵庫厚生連 代表理事常務 細見 万太郎

●●● 協同組合活動スナップ ●●●

兵協連ピースアクション2011被爆ピアノコンサート



△ 生協

今回で3回目となる「被爆ピアノ平和コンサート」を今年は、8月10日（水）神戸市立東灘区民センター「うはらホール」にて開催し454人の参加がありました。原爆の爆風に傷つきながらも永い歳月を乗り越えたピアノが奏でる美しい音色に改めて「平和の尊さ」について気付かされたコンサートとなりました。

「丹波篠山黒豆」が地域団体商標に



△ JA（農協）

「丹波篠山黒豆」が地域団体商標に登録されました。5年にわたって商標出願を続け、ついに登録にこぎつきました！

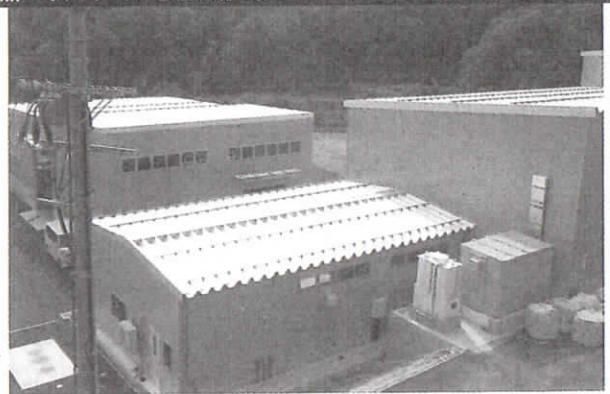
夏の運試し！タコつぼオーナーを募集しました



△ JF（漁協）

明石市のJF江井ヶ島と連携し、タコつぼオーナーを募集しました。たくさん入るかどうかは、タコ次第…。参加者からはおいしいと好評でした。

熱エネルギーの地産地消を担う「木質ペレット製造施設」が本格始動



△ JForest（森林組合）

年間1500tのペレットを生産しています。小学校のストーブや温泉施設のボイラーの燃料として使います。（7ページに関連記事）

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫JCC事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL (078)391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL (078)333-5896
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL (078)940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL (078)341-5082

「第89回国際協同組合デー・兵庫県記念大会」を開催 兵庫JCC

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は7月1日、神戸市で「協同の力で未来を拓く」をテーマに、「第89回国際協同組合デー・兵庫県記念大会」を開催した。当日は、県内から農協、漁協、森林組

合、生協の組合員や役職員など、昨年度のほぼ2倍にあたる約600人が参加した。

第1部では、兵庫県生活協同組合連合会の本田英一会長理事による主催者あいさつの後、兵庫県漁協女性部連合会の森武美会長が「食の安全・安心」、「環境の保全」を盛り込んだ「兵庫JCC宣言」を朗読し、満場一致で採択された。

第2部では、2012年国際協同組合年全国実行委員会委員の浜美枝氏が「心地よい暮らしを守るために～自然と共に生きる」をテーマに記念講演を行った。参加者一同、各協同組合で置かれている立場の違いはあるが、それぞれの立場で自然との共生について考え、取り組みをしていかなければならない思いを共有する場となった。



4団体を代表してあいさつする兵庫県生協連本田英一会長理事

第89回国際協同組合デー兵庫JCC宣言

3月11日に東日本を襲った大地震と津波は、多くの尊い人命を奪ったばかりでなく、被災地の地域社会に壊滅的な被害を及ぼし、また、原子力発電所の功罪を浮き彫りにしました。この波紋は、単に被災地のみならず全国に波及していますが、同時に国内はもとより世界中に支援の輪がひろがりました。

私たちは16年前に阪神淡路大震災を経験しています。希望を失いそうな日々のなか、日本各地より寄せられた温かい支援が復興への励みとなりました。こうした経験から全国に先駆けて、私たち協同組合組織も支援活動を続けています。被災地の一日も早い復興を祈りつつ、これからも心をひとつにした活動が望まれます。

さて、本年は国連が定めた国際森林年です。国際森林年は、世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的として制定され、我が国でも、「美しい森林づくり」を目的とし、森林・林業再生を目指して様々な活動が予定されています。

また、来る2012年は、国連が「国際協同組合年」とすることを宣言いたしました。これは、協同組合が

これまで社会経済開発や世界の食料安全保障、金融危機といった面で果たしてきた役割を国連が高く評価し、各国の協同組合がこれらの問題にいつそう強力に取り組むことに期待し制定されたものです。

このような時代だからこそ、ここ兵庫の地からも、現代における協同組合の価値と私たちの果たすべき役割について、社会に対し何がアピールできるか、いま一度、考えようではありませんか。

本日、第89回国際協同組合デーの開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など、兵庫県内の協同組合に集う私たちは、今こそ協同組合の原点に還り、私たちの身の回りから協同の関係をつくり出すことはもとより、「食の安全・安心」や「環境の保全」にかかる取り組みをさらに前進させるとともに、「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。

2011年7月1日

第89回 国際協同組合デー兵庫県記念大会

昔はゴミが少なかったです。今、ゴミは10倍ぐらいあるのではないのでしょうか。食の問題として非常に危機感を持っているのが食品のロス率です。世帯全体で5.6%のロス率だそうです。ロス率で何が一番多いか。食品類別にすると、これも意外ですが、果実類が16.2%、魚介類が12.1%、穀類1.7%、野菜が10.5%、野菜、果物、調味加工品および魚介で8割弱を占めています。

世界には食糧不足の国がたくさんあります。私は1年に1回インドに行きます。アジアの国々も回ります。本当に貧富の差が激しいです。食べるものがない子供たち、戦争で親を亡くした子供たち、逃げ惑っている子供たち、明日食べるもの、今日食べるもの、今食べるものがない子供たちが大勢います。

洪水もあります。天候不良で収穫できないこともあります。オーストラリアやニュージーランドでは、大洪水があると、途端に収穫物がなくなるわけです。

収穫が上がらずに緊急援助を必要とする国がどれだけあるか。社団法人国際食糧農業協会のデータによると、30カ国にもものぼるそうです。これだけの国が飢餓に苦しんでいるのです。世界の人口60億人のうち、8億人が栄養不足や飢餓に苦しんでいると言われていました。特に発展途上国の状況は非常に深刻です。5人に一人が飢餓に苦しんでいます。

「発揮する協同の力」

世界の人口が発展途上国を中心に急激に増加しているのは、皆さんもご存じだと思います。2025年には79億人になり、2050年には93億人になると言われています。この食料をどのように賄っていくのでしょうか。今回の東京電力福島原発のことがあると、日本の食糧は輸入禁止、フランスもドイツも日本から食糧を輸入しない、こういうことも起こり得るわけです。逆に、海外から出さないとされることもあり得ます。

そういうときにどうすればよいのか。お互いがお互いを助け合う協同体です。東日本は食料基地でもあります。もちろん西は西の食料があるわけですが、農業も漁業も、こういうときこそお互いに手を携えて、これから日本の食料を自給していく。そして国を発展させていく。それが私は大事だと思います。

男性にお伺いします。「ボクが幸せに仕事ができるのも君のおかげだよ。ありがとう」と、言葉に出してありがとうとおっしゃった経験のある男性、手を挙げてください。(手が挙がらない)

一人もいらっしやらないようです。人は支え合っています。男性も女性もそうです。感謝の気持ちがあれば、何かしてくれたときには、ありがとう、助かった。女性もそうです。笑顔でありがとうと言えばもめずに済みます。ぜひ、健康で、笑顔で、毎日幸せに暮らしていただきたいと思います。

「来年は国際協同組合年」

国連が定めた「2012年国際協同組合年全国実行委員会」が発足しました。世界が抱えるさまざまな問題、例えば貧

困や金融の問題、そして経済危機、食糧危機、これは決して人ごとではありません。まさに食糧危機が来るであろうということを実感させられます。気候変動もそうです。私たちの日々の生活の中に、そうしたことが身近な問題としてあると思っています。

仲間とともに学び、実践し、交流し、広く地域社会の人たちに貢献する。それが協同組合の大切な役割だと思っています。皆さん一人ひとりの選択が社会を変えていく可能性を秘めていると思います。

まずは、ご自分が健康で、幸せで、笑顔でいること、地域で支え合うこと。そして地域だけではなくて、日本は国を挙げて支え合っていかなければいけない国です。

国際協同組合年を迎えるにあたって、改めて一人ができることから始めて、ささやかなことで結構ですから、みんなで支え合っていくのが協同体だと思います。ますます皆さまが絆を強めて、今後ともさらにステップアップしていただきたいと思います。

参加者からのひと言

浜美枝さんのお話をお聞きして私が小学生ぐらいの時を思い出しました。その当時は父が仕事から帰ってくるのが遅く、私と母と弟の3人で食卓を囲んでいました。「テレビは消しなさい」とか「ふざけながら食事をしてはいけません」と母によく注意されたことを思い出します。あと「好き嫌いをしてはいけません」もよく言われました。今思うと、食事の時間を大切にしていたのだと思います。

母はお祝い事があるときは手間暇かけて料理をつくってくれました。例えば、ひな祭りの時にはお内裏様とお雛様に見立てたお寿司を作ってくれました。子供でも見ためで楽しめるようにいろいろと工夫をしてくれていたのでしょう。

食べるほうも何も考えずに食べるのではなく五感を働かせることによって“食べる”ということが楽しみになってくるのではないのでしょうか。意識して食べることによって食べものに対しての有り難みが出てくるとも思います。

日本は食品ロス率がとても高いそうです。と思えば飢餓に苦しんでいる国が30ヶ国にもものぼるそうです。一人一人が意識することによって食品ロス率も下がるのではないかなと思います。私もこれを機に意識してなるべく食べものを粗末にしないように心がけたいと思います。

(社)兵庫県緑化推進協会 黒田 麻里子

あこがれの浜美枝さんのお話を聞くことが出来ました。その中で、特に心に残ったことは、ターニングポイントは何歳でもあるということでした。ご自身でも子育てをしながら、やりたいことに突き進まれた御様子が窺えました。

そして口角をきゅっとあげると若く見えますよと…これは私も早速実行しています。そう、私も若く見たいから…

それから、生命には限りがあるということ。常に燃えるものを探し、挑戦していくこと、短期間のものであっても、それらをつなげていき、元気な現役の暮らしを心掛けたいと思います。最後に、この企画に感謝しつつ、各協同組合の発展をお祈りします。

兵庫県漁協女性部員

きん う じゅ

「金雨樹」(協同組合のシンボルツリー)を協同学苑で発見

～故・涌井安太郎氏が米国から実を持ち帰り、自宅で栽培・生育したもの～

このほど、アメリカの“ニューハーモニー村のシンボルツリー”とも、“協同組合のシンボルツリー”とも呼ばれる「金雨樹」が、コープこうべ協同学苑の敷地内に生育していることが発見された。初夏になって、見かけないような花が咲き出したため、調べたところ「金雨樹」だということと、その移植の経緯が判明した。



写真は、コープこうべ協同学苑内に生育している「金雨樹」。
2011年6月30日撮影

1. 「金雨樹」とは？

「Golden Rain Tree」(ゴールデンレインツリー)の日本語訳(あるいは中国名)で、和名では「モクゲンジ属の袋モクゲンジ」で、現物はアメリカ原産と判明。アジア原産の「モクゲンジ」は仏教に縁が深く、その硬い実は数珠に使われている。

この植物は、毎年初夏(梅雨の時期から)になると、小さな黄金色の花を全面につけて、まるで黄金の雨を降らせるように見えることから、詩的な名前がついたものと考えられている。

＜「ニューハーモニーの記念館のパフレット」から抜粋＞

※アメリカ中部インディアナ州にあるニュー・ハーモニーでは現在も、この「金雨樹」が町のブロックを美しく飾り、多くの人に愛され、毎年6月にはお祭りまである。この花の明るい黄色の小さな房は、木の枝を素晴らしく素敵に飾り、風が吹いた時などはそれが垂れ下がり、まるで金色の雨が降っているかのようである。真夏になると、花のあとには小さなホオツキのような鞘(サヤ)がつき、この鞘に金雨樹の種ができるのである。

協同組合の思想的父といわれるロバート・オウエンたちが建設した“ニュー・ハーモニー村(米国)のシンボルツリー”として、約190年前から植栽され、この村全体を覆っていたと言われている。そして、毎年初夏に「金の雨」を降らせている、という「協同組合の夢」を象徴する樹木として育てられたものと思われる。

2. 協同学苑に移植された経緯

故・涌井安太郎氏が、ニューハーモニー(米国)から種子を持ち帰り、神戸市須磨区の自宅で栽培し、苗木にしていた。1994年ごろに、その苗木の中から2本ほど(約1m)を協同学苑の敷地内の史料館の横に移植したもの。

なお、涌井氏は、1981年夏(8月)と1989年夏の2回ほど、米国インディアナ州のニュー・ハーモニーを訪れ、金雨樹の種子を持ち帰っている。

しかしながら、立て札もなく、当時の経緯を知る者も少なかったため、「金雨樹」とは気づかれずに育っていた。また、「金雨樹」が“協同組合のシンボルツリー”だということ自体も、日本国内では一部の研究者などを除くと、あまり知られていなかったという背景事情もあった。

今 協同組合では — 各協同組合からの報告

生協から

第 61 回通常総会および臨時理事会を開催

6月22日(水)兵庫県民会館において兵庫県生協連第61回通常総会を開催しました。2011年度活動計画の中で、「協同組合間協同の前進をはかります。」とし、次の内容を掲げました。

1. 兵庫 JCC (兵庫県協同組合連絡協議会) の充実を図るとともに、「兵庫 JCC 委員会」や「協同組合研究・交流会」を通じ、相互理解と連携強化をはかります。
2. 国際協同組合デー・兵庫県記念大会を農協、漁協、森林組合と一緒に開催し、より一層の連帯活動の充実と、幅広い組合員の参加促進に取り組みます。
3. 機関紙「ひょうご JCC」を定期発行し、生協、農協、漁協、森林組合運動相互の情報交流と、兵協連内部はもとより、行政・関係諸団体への広報を強化します。
4. 環境保護・食の安全・食育など、地域や暮らしに貢献する取り組みについて協議し、協同組合間で連携してすすめます。
5. 協同組合連携と世界を視野に置いた学習と情報交流や準備対応等を行います。(2011年国際森林年、2012年国際協同組合年、ICA-AP神戸等)

以上が承認されました。

6月22日(水)兵庫県民会館において兵庫県生協連臨時理事会を開催しました。会長理事に本田英一(生活協同組合コープこうべ組合長理事)が選任されました。



35 会員 (33 生協 2 団体) になりました (2011 年 8 月 31 日現在)

2011年8月にひまわり医療生協が新たに加入し、33生協と近畿労働金庫兵庫地区統括本部と全国農業協同組合連合会兵庫県本部を合わせた35会員となりました。

JA(農協)から

但馬の自慢をたじまんまで ファーマーズマーケット開店

JAたじまで6月17日、ファーマーズマーケット「たじまんま」がグランドオープンしました。朝9時の開店には約200人が行列を作り、店内にはトマトやキャベツ、ニンジンなどの野菜や、パンなどの加工品、但馬牛肉



グランドオープンの様子

などが並べられ、開店の時を待ちました。出荷者の代表やJAたじまの役員が、開店記念のくすだまを割ると、待ちわびた人たちが店内に入り、早速、買い物を楽しみました。たじまんまでは約400人の生産者が出荷者として登録。新鮮で安全・安心な食材を消費者へ届けています。近くに住む主婦は、「品ぞろえの多さと新鮮さに満足しました。この満足感がいつも感じられるよう、期待しています」と話しました。

たじまんまの名称には、「但馬の大地で採れた特産を、まるのまんま、そのまんま取り扱う」という意味が込められていて、金子洋一代表理事組合長は、「生産者の自慢の品、但馬の自慢の品を出荷してもらい、開店することができました。農業の力で但馬を元気にしたい」と話しました。

協同組合運動

に生きる

「健康管理活動による 地域社会への貢献」

J A兵庫厚生連 代表理事常務 細見 万太郎



J Aの厚生事業は、産業組合法(明治33年制定)のもと、大正8年11月に窮乏する農村地域の無医地区の解消と低廉な医療供給を目的として、島根県の青原村の信用購買販売生産組合が医療事業を兼営したのが始まりです。

この運動は、その後全国的に広がり、昭和23年、農協法のもとで厚生連が継承し、昭和26年には「全国厚生農業協同組合連合会の会員である厚生農業協同組合連合会」は、医療法第31条に規定する公的医療機関の開設者として厚生大臣から指定を受け、以来、特に農山村地域の保健・医療・福祉事業を積極的に推進しております。

本会厚生事業は、昭和34年にJ AとJ A兵庫共済連(現在のJ A共済連兵庫)が共済事業の福祉活動として、共済加入者を対象に胸部レントゲン車による巡回診療(健診)を始め、昭和41年以降はJ Aと市町の共催によって、貧血・高血圧・心臓病等の循環器検査を主体とするいわゆる「町ぐるみ健診」に全力をあげて取り組んでまいりました。

そして、このような経過を踏まえ、厚生事業専門の連合会が必要ということで、昭和54年10月1日、「健康管理専門厚生連」として「J A兵庫厚生連」がJ A出資のもとに設立・発足しました。

おかげで年々受診者も増加し、平成7年度には、町ぐるみ健診の受診者が延べ200万人、平成22年度には延べ400万人を突破いたしました。

ここにあらためて、J A並びに関係機関・関係者の皆様に対しまして心よりお礼申し上げます。

さて、本会厚生事業の主な活動は、特定基本健診(町ぐるみ健診)と定期健康診断、生活習慣病予防健診であります。循環器健診車6台と胃胸部健診車2台を保有するとともに、兵庫県内の各健診機関と連携し、総合健診システム(厚生連が実施する基本健診と各健診機関のがん検診の受診票、結果表を1枚に集約し作成)

により受診者・J A・市町の利便性の向上に努力しております。

また、本会厚生事業の特徴については、①前述しております医療法第31条による公的医療機関として位置付けられていること、②兵庫県内の41市町のうち75%以上の31市町から特定基本健診を受託していること、③兵庫県内56の事業所(14J Aと42団体)から生活習慣病予防健診並びに定期健康診断を受託していること、④特殊な検査を除きすべて自前施設で検査を行っていること、⑤プライバシーマークの付与認定を得ていること、などがあります。

さらに、平成23年度には、本会が窓口となりJ Aグループ兵庫として、兵庫県と「兵庫県がん検診受診率向上推進協定」を締結し、組合員・地域住民への特定健診・がん検診への受診促進に取り組んでおります。

「予防は治療に勝る」の言葉があるように、J A厚生連の使命である、組合員および地域住民が日々健やかに生活できるように、保健・医療・福祉等の健康管理活動を通じてその支援を行うことにより、地域社会の発展に貢献したいと考えております。

これからも、J A厚生事業に対しまして、ご支援、ご協力をお願い申し上げるとともに、兵庫JCCと加入各協同組合のますますの発展を願っています。

事業所の定期健康診断・協会けんぽ管掌健康保険「生活習慣病予防健診」のご依頼については

JA兵庫厚生連までご連絡ください。
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1番地
電話 078-333-6260

J Aグループは、「兵庫県がん検診受診率向上推進協定団体」として、組合員・地域住民の特定健診・がん検診の受診促進に取り組んでいます。